

8月17日(月)

## 神が人を見るように

聖書朗読 ヨハネ 4：1～9

全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。

マルコ 16：15

## 今日のカ

2020年8月17日～8月23日

翻訳 藤岡 伸子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

スカルの町へと続く分かれ道の分岐点にヤコブの井戸があります。そこは聖書に描かれた地所のうち、最もその当時の姿を残した場所と言われています。およそ2000年前、疲れ果て喉が渇ききった人が昼頃この井戸に辿り着きます。このような光景は珍しいことではなく、ここではそのような旅人が多く見られました。ただこの時はひとつ珍しいことがありました。それは、この旅人がユダヤ人であったにもかかわらず、サマリヤの地に立ち寄ったということです。当時の人々はそのような事を聞いたことがありませんでした。そのお方はイエス様でした。

イエス様は、ユダヤ人とサマリヤ人との間の激しい対立や互いの偏見をご存知であったにもかかわらず、サマリヤの女性が井戸に水を汲みに来たとき、彼女に声を掛けられました。そのようなことはユダヤ人の規範、そして社会全般の慣習に反するものでした。イエス様が、ご自身がメシヤであることを最初に現されたのがこの罪深い女性でした(ヨハネ4：25～26)。彼女はすっかり興奮し、自分が恥とされ厳しい叱責を受けるかもしれないことなど忘れ、水がめを残したまま、スカルの男性たちのところへ急いで走って行き、彼らの目でメシヤを確かめるようにと伝えたのでした。このような彼女の証とイエス様の語られたことばによって、「サマリヤ人のうち多くの者がイエスを信じた」のです(ヨハネ4：39)。

讃美歌 224

祈り 親愛なるお父様。あなた様をご覧になるのと同じように、私たちも他者を見ることができるようにしてください。特定の人種あるいは階級ではなく、あなた様のみ姿に似せて造られた魂として人を見ることができるようにしてください。他者を愛し彼らと福音を分かち合うことができるよう助けてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

セラーズ・S・クライン・JR  
テネシー州 ヘンダーソンビル

8月18日(火)

## 水 瓶 を お い て

聖書朗読 ヨハネ 4:28~30

その町のサマリヤ人のうちの多くの者が、「あの方は、私がしたこと全部を私に言った」と証言したその女のことばによってイエスを信じた。

ヨハネ 4:39

あのヤコブの井戸の女性には興味深い点があります。とりわけ彼女が急いで水がめを置いて走って行ったという点です。皆さんは、彼女が水がめを置いて行ったのは、ただ急いでいたためにすっかり忘れてだけだと思いませんか。苦勞して大切な水がめを井戸まで運び、そこに活ける水を満たしていただくなどという機会は、その後再びあったと思いませんか。私はこう思います。彼女は、水を入れた水がめはとても重く、頭に載せて水をこぼさないように運ぶためには、ゆっくりバランスを保ちながら歩かなければならないことを心得ていました。ですからそのような彼女の長年の経験から、この日常の仕事をしながらでは、他の者たちに今自分の経験していることを急いで伝えることは出来ないと考えたのでしょう。私は時々、自分の水がめほどのぐらい自分にとって重いものだろうと考えます。日々の生活に欠かせないものもありますが、私たちがサマリヤの女性のように、それを一旦置いて、手遅れとなる前に、他の人たちにこの世の救い主について急いで伝えなければと思います。

讚美歌 225

祈り 親愛なる神様。イエス様を自分が見出すだけでなく、他の人と分かち合うことが大切だと思います。あなた様が私を変えてくださったように彼らも変えてくださるよう、どうか私が自分の水がめを置いて、他の人たちのもとへ行って伝えることができるようお導きください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ケイ・バーナム・エバンズ  
テキサス州 ラボック

8月19日(水)

## 神 様 の ご 性 質

聖書朗読 ヨハネ 5:16~23

というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。

ヨハネ 6:33

春先になるとミソサザイが我が家の庭先のシダの中に巣を作り、程なくしてひなが羽から孵ります。その巣を覗きこむと、生まれたてのひなたちはみな、本能的に大きく口を開け親鳥からもらう餌を待っています。この様子を見ると、私はあらためて気づかされることがあります。私たちが神様に造られたものの一部であり、とりわけキリストにある無力な赤ん坊のように思えるとき、主にある家族を切に求めるものでしょう。神様は私たちに、他の者が苦しんでいるとき、ただ傍観するのではなく、神様の愛の糧を彼らに与え、神様の驚くばかりの恵みで彼らを包み込み支えてあげるよう望んでおられます。神様はご自身の子どもたちをこの世に放り出したままであることなど望んでおられません。自らの力で様々な事柄を解決して生き残った者だけが支配する世界など望んでいないのです。キリストに倣う者とは、幼子を愛をもって育み、愛し難い人、心が折れてしまった人、弱さを覚える人、心が打ち砕かれた人、また、自分の無力さに気付いてさえいない無力な人たちを積極的に愛する者たちのことです。私たちは皆そのような主のご性質に与る者なのです。これこそ神様がご自身のこどもたちに示してくださっていることであり、神様は、私たちが神様に倣い、他の人を慈しむことを望んでおられるのです。

讚美歌 389

祈り 私たちの創造主なるお父様。あなた様をご覧になるのと同じように私たちもこの世を見て、あなた様の手となり足となり、光を表す者とさせてください。そして、愛を必要としていることにさえ気づいていない人たちを愛することができるようにしてください。

イエス様によって祈ります。アーメン。

アリソン・マーティン  
ルイジアナ州 シュリーポート

8月20日(木)

## 喜ばせるのは神か人か

聖書朗読 ヨハネ 5：41～47

互いの榮譽は受けても、唯一の神からの榮譽を求めないあなたがたは、どうして信じることができますか。 ヨハネ 5：44

近年、差別的な表現をなくそうとする動きが盛んに求められています。何かを発信するとき社会的に受け入れられる表現とするため、新しい言い回しを学ばなければならぬ場合もあるでしょう。中には面白いものもあります。例えば、髪の毛の薄い男性はもはや「禿げ」ではなく「毛根の組織に問題がある男性」に、あるいは、「迷った」は「ただ位置的に不都合な状況にある」という表現にといった具合です。不適切な物言いをしないよう気を付けないと、周りの人から嫌われてしまうでしょう。

イエス様は当時の宗教的指導者たちについて、彼らは互いを褒めそやすのに忙しく、ご自身を信ずることは出来ないであろうと言っておられます。ある人の記述によれば、「サンヘドリンの宗教家たちがイエス・キリストを信じるが出来なかったのは、それによって仲間たちの間で自分が不人気な立場に置かれてしまうと考えたからであろう」としています。彼らは、神様にどう思われるかではなく、互いにどう見られるかを意識しながら行動していたのです。

イエス様は、「わたしは人からの榮譽は受けません。」(ヨハネ5：41)とおっしゃっています。この世は常に私たちの思考や行動における一致を求めますが、パウロは、「この世と調子を合わせてはいけません。…心の一新によって自分を変えなさい。」(ローマ12：2)と言っています。私たちはまず神様を称え、人が喜ぼうと喜ぶまいと、ただ神様に喜んでいただきましょう。

讃美歌 274

祈り 親愛なる主よ。私たちがあなた様の御国を第一とするとき、他の人が喜ばないこともしばしばあります。けれども、どうか私たちが、あなた様よりも人を喜ばせようとする誘惑に打ち勝つことが出来るようお助けください。イエス様のお名前によって。アーメン。

スコット・ゲージ  
アーカンソー州 ファヤットビル

8月21日(金)

## 糧を求めろ

聖書朗読 ヨハネ 6：25～29

なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を父すなわち神が認証されたからです。 ヨハネ 6：27

我が家を売りに出そうとしたときの事ですが、売却の手配を依頼した不動産仲介業者からアドバイスをもらいました。それは、色々な不動産屋が来た時には何か飲み物でも出すと良いということでした。物件を内覧に来る不動産屋は、市場に出回っている非常に多くの物件を取り扱っているもので、内覧時に飲み物か何かを出されるとその家が記憶に残りやすいとのことでした。その口にした物の美味しかった味が記憶として彼らの印象に残るわけですが、本来の目的は家の売却です。イエス様によって食事を与えられた民たちは一時的な肉の欲求が満たされましたが、イエス様はこの肉の糧を与えられた機会を用いて、魂を満たすもっと大切な糧について教えられました。

私たちの目を目先の事に向け、本来の目的から逸らそうとするものが多くあります。私たちはしばしば肉体的な「物」に手を延ばし、即席のアプローチを取り、一時的なものの先に目を向け、永遠のいのちを目指した歩みをするようにというイエス様のみことばに心を留めず、手取り早く得られる満足を求めがちです。イエス様は特別なお方であり、私たちが感謝することを忘れるべきお方ではありません。オズワルド・チャンパーはこう言っています。「イエス・キリストの喜び、それは父なる神への完全な服従と自己犠牲にあった。」まさにその通りです。私たちの人生の目的は、イエス様を見上げ、永遠の命を保証してくださる霊の糧を求めることです。

讃美歌 502

祈り 天のお父様。私たちがこの世の欲に、私たちの重んずべき価値を支配させてしまうとき、どうかお赦しください。

常に私たちの中心とすべきお方イエス様によって。アーメン。

ラリー・ケイン  
テキサス州 ハイランドヴィレッジ

8月22日(土)

## イエス様とは何者か

聖書朗読 ヨハネ 7:25~36

そこでピラトは彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、自分たちの律法に従って裁きなさい。」  
ヨハネ 18:31

私たちはゲームをしますが、その理由は色々あるでしょう。例えば、どうしても避けられない事を後回しにするためや支配欲から、または勝利の感覚を求めて、あるいは、単に楽しみのためなどではないでしょうか。中でも得意なのは、待つというゲームではないでしょうか。私たちにとって最も重要な決断でさえ後回しにするというゲーム、イエス様との関わりについてはいかがでしょうか。

神殿でイエス様が教えられていたとき、群衆は皆その教えを聞きました。彼らの中には、イエス様を正しいお方、さらには救い主とさえ認める者たちもいましたが、一方、悪魔に取りつかれていると言う者たちもいました。パリサイ人たちは、目の前に立っているそのお方こそ神の御子であるということに目が開かれず、そのお方を真に知ろうとする決断が出来なかったために、イエス様を捕える決定を下すこととなったのです。

イエス様は今もなお素晴らしい様々な形で、私たちに向けてご自身のことを語っておられます。私たちは、イエス様が神様のみことばから出られたお方であることを知っています。また、イエス様のなさる事はすべてに愛と優しさがあり、私たちを無条件で愛してくださり、そして、ご自分のいのちを捧げてくださったが故に、私たちが神様のみもとで永遠に生きる者とされた事を私たちは知っています。受け入れざるを得ないと思われるこれだけの理由があるのですから、イエス様を真に知ることを躊躇うのは、全く意味のないゲームだと思います。

讃美歌 517

祈り 親愛なる主よ。あなた様が私たちに主を見出すことができるようお助けくださいるとき、私たちが主を見出すことができるようお導きください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ランディ・ロバーツ  
ニューメキシコ州 グランツ

8月23日(日)

## イエス様に学ぶ罪人の救い

聖書朗読 ヨハネ 8:1~11

行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。

ヨハネ 8:11

姦淫の罪を犯した女性にイエス様が語られたことは、私たちにとっても大切な教訓です。イエス様は、彼女が清い歩みが出来るよう助けることを望んでおられたため、彼女に、尊重する姿勢と優しさを示され、そして、これからは罪を犯さないようにと促されました。一方、ユダヤ人指導者たちは、この女性を恥じとし冷酷に扱いましたが、これでは、彼女がその歩みを改めるようにはなりませんでした。勿論イエス様もユダヤ人指導者たちと同様、女性の犯した罪を容認されたわけではありません。彼女の犯した罪を看過されたのではなく、彼女が再び罪を犯すことのないよう導くアプローチをされたのでした。モーセの律法では、姦淫を犯した女性は石打ちにするよう命じられていますが、その時点で、告発した者たちはまだそのような刑罰を与えていませんでした。

このお話から、イエス様が罪に寛容なお方だと結論づけるべきではありません。イエス様は彼女に「今からは罪を犯してはなりません。」と言っておられます。このように、私たちも正しい事と誤りとを見極めた上で、今後罪を犯さないよう、罪を犯した人を支えていく事が大切です。またこの聖書箇所では、罪びとはすべて悔い改めるようにと教えられています。この姦淫を犯した女性その後どのような歩みをしたか分かりませんが、イエス様と出会ったことでより良い決断をしながらその後の人生を歩んだと願いたいものです。もしあなたが今罪を犯しているなら、イエス様は「今からは罪を犯さないように」とおっしゃるでしょう。もし罪を犯していると思う人がそばにいたら、その人から離れるのではなく、優しさをもって相手を尊重する姿勢でその人に正しい歩みを促すようにしましょう。

讃美歌 250

祈り 天の神様。イエス様をこの世に送られ私たちの罪を取り除いてくださるといふあなた様のご計画を褒め称えます。私たちがいかんにして赦され、そして赦す者となるかをお示しください感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

スタッフオード・ノース  
オクラホマ州 エドモンド